



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究会報
Citation	独語独文学研究年報, 30, 41-44
Issue Date	2003-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/26142
Type	departmental bulletin paper
File Information	30_P41-44.pdf



研究会報

講義題目（2003年度）

[学部]

独語学概論Ⅰ	ドイツ語におけるコミュニケーション	植木 迪子
独語学概論Ⅱ	現代ドイツ語の構造とその背景	清水 誠
独文学史概説Ⅰ	文学史記述の諸問題	山田 貞三
独文学史概説Ⅱ	文学研究入門	石原 次郎
独語学	ドイツ語の多言語性（2）	植木 迪子
独語学	英語との比較におけるドイツ語	神 久聡
独語学	Textsortenspezifische ÜbungenⅠ: Hörverstehen	Christine Kühn
独語学	Textsortenspezifische ÜbungenⅡ: Schreiben	Christine Kühn
独文学	魔女の歴史と物語（1）	山田 貞三
独文学	魔女の歴史と物語（2）	山田 貞三
独文学	Deutsche Musik und Film	Barbara Klema
独語学基礎演	Kommunikative GrundlagenⅠ	Birgit Lisker
独語学基礎演習	Kommunikative GrundlagenⅡ	Christine Kühn
独文学基礎演習	ドイツ児童文学を読む（3）	Christine Kühn
独文学基礎演習	ドイツ児童文学を読む（4）	山田 貞三
独語学演習	ドイツ語方言の諸相－北ドイツ	山田 貞三
独語学演習	中世ドイツ語入門	清水 誠
独語学演習	Landeskunde – Deutsche Landschaften in Literatur und MusikⅠ	清水 誠
独語学演習	Landeskunde – Deutsche Landschaften in Literatur und MusikⅡ	Christine Kühn
独文学演習	言語のイメージ心理学（1）	Christine Kühn
独文学演習	言語のイメージ心理学（2）	石原 次郎

[大学院]

ドイツ文学特別演習	文学教育の社会史（3）	石原 次郎
ドイツ文学特別演習	文学教育の社会史（4）	石原 次郎
ドイツ語学特別演習	Sprechen –Psychologie der Sprachproduktion（3）	植木 迪子
ドイツ語学特別演習	Sprechen –Psychologie der Sprachproduktion（4）	植木 迪子
ドイツ語学特別演習	古高ドイツ語とドイツ語史（1）	清水 誠
ドイツ語学特別演習	古高ドイツ語とドイツ語史（2）	清水 誠
ドイツ文学特別演習	Die kurze Geschichte der deutschen Literatur（1）	山田 貞三
ドイツ文学特別演習	Die kurze Geschichte der deutschen Literatur（2）	山田 貞三
ドイツ語学特殊講義	Zwischen Literatur und Alltag: Kommunikation im FilmⅠ	Christine Kühn
ドイツ文学特殊講義	Zwischen Literatur und Alltag: Kommunikation im FilmⅡ	Christine Kühn

研究会行事記録

◎2003年2月20日に北海道大学文学部204号室において2002年度修士論文・卒業論文発表会が開かれた。

〈留学関係〉

◎2003年3月に真貝恒平氏がミュンヘン大学へ留学のため出発。

◎2003年9月に戸松豊氏がミュンヘンより帰国。

☆2003年6月14日の総会にて、幹事選出・新会員の紹介等が行われた。

2002年度 独語独文関係の論文題目

卒業論文

奥田啓明：ドイツ語における名詞的表現化による副文短縮の際の制約について

野村洋二郎：グスタフ・マイリンクの『ゴーレム』が読者を迷走させる要因

森重晶子：映画のチラシテキストの分析 ―その宣伝効果の観点から―

修士論文

井上暁子：1989年以降のドイツにおけるポーランド移民文学―国境を越える作家たち―

香川千穂：パウル・ツェラーンの初期作品―ブコヴィーナのコンテクストにおいて

熊坂亮：ヘッジ表現の対人関係的機能―ポライトネス理論の観点から

真貝恒平：ワイマール共和国期における文筆家の自己理解と危機意識

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため、下記の事業を行なう。
 - 1) 機関誌「独語独文学研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会会員は北海道大学大学院文学研究科・独語独文学関係の教官・院生ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。

本会会員は上の活動の遂行のため所定の会費を払う。

本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。

本会の事務局は北海道大学大学院文学研究科におく。

本会に賛助会員をおく。

☆ 論文執筆要項

1. 論文審査
 - 1) 本誌は論文の掲載に関して審査を行う。
 - 2) 論文の採否は審査委員が決定する。その際、原稿への加筆、修正などを求めることがある。採否の結果は、編集委員会が投稿者に通知する。
 - 3) 審査委員は、編集委員会から委嘱を受けた本会所属の教員数名がその任にあたる。
2. 原稿執筆規定

執筆申し込み : 執筆希望者は、各年度の5月に行われる総会の前日までに、その旨を編集委員会に申請すること。

ページ数 : 20ページ程度。1ページの文字数・行数は任意。ただし35～37行程度が望ましい。

原稿の大きさ : A4。

論文題目 : 原稿1ページ目の最上段中央に、太字またはゴシックで多少大きめに記載する。二行にわたっても構わない。また、別紙にドイツ語または他の欧文による題目を記載する。

注釈・文献 : 注釈は脚注または奥付けとする。注釈番号はアラビア数字で右括弧付き。

執筆者氏名 : 原稿1ページ目の3行目(題目との間に1行あけること)、太字またはゴシックで右端に記載する。

身分の明記 : 原稿末に丸括弧つきで、右寄りで所属機関・職名を明記する。

締め切り : 10月31日。

会 員 名 簿

※青柳 謙 二	○阿部 和 夫	石川 克 知	石原 次 郎
伊藤 祐紀子	井上 暁 子	岩井 洋	岩田 聡
◎植木 迪 子	梅津 真	江口 豊	岡崎 朝美
岡田 麻 子	荻原 達 夫	香川 千 穂	川崎 良 江
※川島 淳 夫	川嶋 幸 子	岸川 良 蔵	○岸本 明 子
○熊坂 亮	佐藤 修 子	佐藤 俊 一	塩谷 幸 子
清水 誠	シャイフェレ馨子	神 久 聡	真貝 恒 平
杉浦 康 則	鈴木 将 史	瀬尾 慎 一	高橋 修
田中 剛	対馬 晃	寺田 龍 男	戸松 豊
中川 勝 昭	○中村 寿	中 祢 勝 美	名執 純 子
名執 基 樹	西川 智 之	野村 洋二郎	藤本 純 子
前原 真 吾	三浦 國 泰	最上 英 明	森田 一 平
山口 修 司	山田 恵 子	山田 貞 三	山田 善 久

◎は会長

○は幹事

※は名誉賛助会員

編 集 後 記

レフェリー制を導入して3年目となりました。掲載論文は2点ですが、これらは厳正な審査を受けた論文です。ご多忙中、快くレフェリーを引き受けてくださった方々には、この場を借りて深く感謝申し上げます。

編集委員一同